

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

これからも、 毎日の積み重ねを大切に

通信教育部社会福祉学科卒業生 鈴木さくら

はじめに

私は平成29年に3年次編入で通信教育部に入学しました。勤め先である高齢者施設に精神の病を持つ入所者が多かったこともあり、精神保健福祉士の資格を取ろうと思ったのがきっかけです。2年間の学びでは、なるべくスクーリングに参加し、レポート作成をこなしました。仕事をしながら、スクーリングに通うのは想像以上に大変でしたが、毎回新たな学びを得られることが嬉しくて、今振り返れば、自分を大きく成長させてくれた2年間だったと思います。

今回、「With」への寄稿のお話をいただき、私の体験がほんの少しでも今頑張っている誰かの役に立てれば、という思いで書かせていただきたいと思います。

実習を通して学んだこと

精神保健福祉援助実習は、3年次に地域活動支援センターで、4年次にデイケア併設のクリニックで実習させていただきました。

地域活動支援センターでの実習は、センターを利用するメンバーの方と接する中で、個人の思いや人生の背景、一人一人が抱く生きづらさというものがあるという意味を持つのか、深く勉強させていただきました。地域の中で、その人がどのような生活を望んでいるのか、理解しようとするのをやめないことが大切であると学びました。また、生きづらさとは何なのか、理解したいと思うものの、丁寧な考察が出来なかったのが大きな反省

点でした。人を理解するとはどのようなことなのか、自分はまだまだ勉強不足であると痛感した実習でした。

クリニックでの実習は、デイケアを利用するメンバーの方々とは毎日様々なプログラム活動に参加させていただきました。デイケアではメンバーに対する小さな気づきを大切にしていると感じました。チーム医療の大切さ、問題解決の結果が全てではなく、多職種が連携し、解決に向かうまでの過程（プロセス）もとても大切であるということ学びました。実習担当者から、どんなに小さくても気づきがあった時は何かしらのアクションを起こすことも大切であると教えていただきました。かかわりから得る気づきや変化を大切に、丁寧な対応を積み重ねていくことは、相手と信頼関係をつくる上でとても大切だと学ばせていただきました。また、疑問に感じたことは、その都度実習指導者に質問し、毎日良い振り返りができたと思います。

実習中は、とにかく身体的にも精神的にも予想以上にエネルギーを使います。実習日誌の作成はもちろんですが、しっかり食べて可能な限り睡眠時間を取ることもとても大切だと思います。実習で不安なことがある時は、巡回指導の先生に相談してみるのも一つだと思います。きっと力になってくれます。

国家試験

国家試験対策を開始したのは10月上旬でした。使用したのは、中央法規の「過去問解説集」「模擬問題集」「受験ワークブック」「精神保健福祉士国試ナビ」です。私の場合、医療機関の実習が11月だったため、11月中は実習と事後レポートの作成を優先しました。年末までは「過去問解説集」を、年が明けてからは「模擬問題集」を繰り返しました。問題集が間違いだらけになると、不安や焦りから全く集中できなかった日も多くありまし

た。

私自身、仕事と育児の間で、十分な受験勉強の時間を確保することが非常に困難でした。わずかな隙間時間の積み重ねが、本当に貴重だったと思います。隙間時間は、数十分だけの時もその時間は集中しよう、できる限り多くの問題を解こうと取り組みました。ここまできたからには諦めるわけにはいかない、という思いもあり、ひたすら問題を解きました。問題集の間違った部分、理解が出来なかった部分は解答の解説やワークブックに戻り、理解出来たら問題集に赤ペンでどんどん書き込みました。

国家試験本番は、自分にとって難易度の高い問題が多く、自己採点も満足いくものではありませんでした。「駄目だった」という思いの方が強かったと思います。しかし、こんな私でもなんとか合格することができました。最後まで諦めず、自分を信じたことが合格につながったと思います。

おわりに

大学を卒業し、現在も福祉の現場に携わっています。毎日の仕事の中で、自分の言葉には責任を持つこと、どんな時もまずは相手の訴えを受けとめること、気づきを大切にすることを意識して仕事をするようにしています。困難にぶつかる時もありますが、その人の力を信じて、何が求められているのか考えること、理解することを止めず向き合う大切さをいつも、忘れないようにしています。これからも様々な出会いを大切に、自分自身学び続けていきたいと思います。

卒業までの2年間は本当に目まぐるしい日々でした。仕事との両立も本当に大変でした。それでも卒業と資格取得ができたのは、何よりも家族の協力と理解、大きな支えがあったからだと思います。子ども達には沢山の寂しい思いや我慢をさせたと思います。スクーリングに向かう当日の朝、泣いて離れない時もありました。多くの人に支えてもらっていることのお

りがたさを痛感した2年間でもありました。大学生活では、諸先生方をはじめ、職員の方々に熱心な指導をしていただきましたこと、心より感謝いたします。また、通信教育学部の仲間との出会いも苦しい時、辛い時、大きな心の支えになりました。これからも感謝の気持ちを忘れず努力していきたいと思います。本当にありがとうございます。

在学生の皆さん、実習や国家試験に向けて沢山の不安もあると思いますが、どうか自分の学びたいという想い、自分の力を信じて頑張ってください。仕事をしながらだと思いうようにいかない時がきっとあると思いますが、一步一步の積み重ねが、きっと大きな力になり実を結ぶと思います。

最後に、このような機会をくださいましたこと、心より感謝いたします。ありがとうございました。

スクーリング・アンケートより(2)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●福祉法学 菅原 好秀

- ・身近な具体例を提示したあとに、難しい法律を説明していただけたのでイメージがしやすくわかりやすかったです。
- ・何度も重要な箇所を確認していただけたので、復習するポイントがつかめました。

●医学一般 城戸 裕子

- ・私たちの目指す仕事の第一歩は、相手を知ること、そして医学一般は自分(人間)の中を知ること。とても興味をもてた講義でした。
- ・介護の仕事を何年かやってきましたが、現場では決して学べないようなこともあり、それを今後何かのかたちで活かしていきたいと思います。

●保健医療サービス論 佐藤 英仁

- ・医療と経済との関連、国の政策と医療と人口動態の現状など、全てが繋がっていることがわかりました。とても理解が深まる授業でした。
- ・診察報酬制度、医療機関の機能と役割や医療保険制度など興味深い内容が多く、福祉現場での支援における基礎知識として、とても大切だと感じた。

●福祉経営論(福祉施設管理論) 高橋 誠一

- ・福祉サービスで働くうえでの注意点について、経営者側の考え方を学べた。
- ・よく耳にする社会福祉法人について、はじめて深く学ぶことができ、今まで何もわかっていなかったことに気付かされた。

●高齢者福祉論 石附 敬

- ・「人は生まれてから亡くなるまで生涯にわたり発達していく」この言葉がとても印象的でした。
- ・介護の分野は未知の世界でした。ピンとこないことも多かったです。データをもとに介護の現状、実態がわかりためになりました。

●高齢者福祉論 椎名 清和

- ・高齢者に対しての視点、感情の変化がありました。現在の日本における大きな問題になっていると強く感じました。
- ・高齢者のかたと向き合うとき、人にはそれぞれの価値観とそれぞれが思う幸せがあるのだということを常に考えてみたいと思いました。